

10/19/55

DIALOG(R)File 347:JAPIO

(c) 2004 JPO & JAPIO. All rts. reserv

02741270 **Image available**
ELECTRONIC CUTFORM SYSTEM

PUB. NO.: 01-038870 [JP 1038870 A]
PUBLISHED: February 09, 1989 (19890209)
INVENTOR(s): MISHINA NAOMI
 NAWATA TOSHIRO
APPLICANT(s): NEC CORP [000423] (A Japanese Company or Corporation), JP
 (Japan)
APPL. NO.: 62-195588 [JP 87195588]
FILED: August 04, 1987 (19870804)
INTL CLASS: [4] G06F-015/22; G06F-003/02
JAPIO CLASS: 45.4 (INFORMATION PROCESSING -- Computer Applications);
45.3
 (INFORMATION PROCESSING -- Input Output Units)
JOURNAL: Section: P, Section No. 877, Vol. 13, No. 228, Pg. 142,
May
 26, 1989 (19890526)

ABSTRACT

PURPOSE: To increase the correctness of input data and, simultaneously, to decrease the load of a business form writing person by defining the attribute of a publisher item to an arbitrary field at the time of designing a business form and automatic-inputting data corresponding to the item at the time of writing said form.

CONSTITUTION: A user logs on to an integrated office system 11 by the ID of his own and activates an electron cutform system 12. When the user designates the business form of a commuter pass purchasing application form, a business form data preparing part 6 reads in a business form definition designated by a business form definition storing part 3 and displays it on a CRT display 7. At such a time, the preparing part 6 reads in and automatic-inputs the data of the user from a user office environment file 5 to the item in which the attribute of the publisher item is defined. To the name of the publisher, the name of a publisher belonging department and a publisher belonging division 17 mail number, a full name 24 of the user, a belonging department and the mail number are automatic-inputted and

DD
2089

displayed respectively. To a publishing date, the date of the very
day is
read in, automatic-inputted and displayed by a date generator 4.

⑫ 公開特許公報(A)

昭64-38870

⑬ Int. Cl.⁴G 06 F 15/22
3/02

識別記号

3 6 0

庁内整理番号

7230-5B
G-8724-5B

⑭ 公開 昭和64年(1989)2月9日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 電子伝票システム

⑯ 特 願 昭62-195588

⑰ 出 願 昭62(1987)8月4日

⑱ 発 明 者 三 科 直 美 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑲ 発 明 者 縄 田 敏 郎 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑳ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号
㉑ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

1. 発明の名称

電子伝票システム

2. 特許請求の範囲

統合オフィスシステムにおける複数フィールド
からなる帳票データを作成、処理する電子伝票シ
ステムにおいて、

帳票設計時に帳票の任意のフィールドに発行日
時、発行者名、発行者所属部門名、発行者所属部
門メール番号の発行者項目という属性を定義する
帳票定義手段と、

利用者の属性情報が予め格納されている利用者
オフィス環境ファイルと、

帳票起票時に該フィールドに前記ファイルに格
納されている値を自動的に入力する手段を有する
ことを特徴とする電子伝票システム。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は電子伝票システムに関する。

(従来技術)

オフィス内においては、定期券購入申込書、予
算申請書、物品購入申請書、出張伺い書等、様々
な帳票が使用されている。これらの帳票は起票部
門においては白紙帳票の取り出しから帳票への
データ記入、そのチェック、訂正、査閲、承認、
主管部門への送付等または主管部門においては帳
票の管理として新規導入のための帳票書式の設
計、印刷の発注、補充管理、さらに帳票のデータ
処理として帳票の仕分け、転記、集計、パンチ入
力等の作業に付されている。

近年、個別に利用されてきたパソコン、ワー
プロ、ファクシミリを始めとする様々な事務機器、
通信機器、情報処理機器を社内間に張りめぐら
した通信ネットワークでつなぎ、情報の分散処理
データファイルの共有化、データ通信などのOA
のもつ機能を高いレベルで利用できる統合オフィ
スシステムの導入が進んでいるが、このような帳
票とその処理を電子化した帳票管理システム(以
下電子伝票システムと記す)を統合オフィスシ
ステムのもとで起動することにより、伝票処理の効

DD
1082

率化が図られている。オフィス内の帳票のほとんど全てには、発行者名、発行者所属部門、発行者所属部門メール番号、発行日時等のフィールドが設けられている。従来の電子伝票システムの帳票データ入力方式においては、これらのフィールドに対しても他のフィールドと同様に全て手入力でデータが入力されていた。

(発明が解決しようとする問題点)

上述した従来の入力方式では、手入力のため正確さに欠けたり各々の帳票に対して起票者が同じであれば共通である発行者データのフィールドに対しても帳票毎に同じデータを入力しなければならず、帳票起票者に負担がかかるという欠点がある。

(問題点を解決するための手段)

本発明の電子伝票システムは、

帳票設計時に帳票の任意のフィールドに発行日時、発行者名、発行者所属部門名、発行者所属部門メール番号の発行者項目という属性を定義する帳票定義手段と、利用者の属性情報が予め格納さ

イル5は、統合オフィスシステム11において、利用者の氏名、所属部門名、所属部門メール番号等の属性情報が予め格納されている。帳票データ作成部6は、帳票定義記憶部3から設計済の帳票を取り出し、発行者項目として属性定義されている項目に対して、利用者オフィス環境ファイル5および日時発生装置4から対応する値を読み込んで、入力する。CRTディスプレイ7は帳票イメージ、データ等を表示する。

次に、本実施例の動作について帳票の例として第2図に示す通勤定期券購入申込書を用いて説明する。

この会社では、定期券購入申込書の帳票設計および起票には統合オフィスシステム11の電子伝票システム12を利用している。各利用者は統合オフィスシステム11において、固有の利用者IDをもち、仮想オフィス(実際のオフィスの環境を統合オフィスシステム11の中で電子化されたオフィスとして実現したもの)に在籍者として登録されている。また、各利用者IDに対応して利用者の

れている利用者オフィス環境ファイルと、帳票起票時に該フィールドに前記ファイルに格納されている値を自動的に入力する手段を有している。

(作用)

したがって、入力データの正確さが向上し、また帳票起票者の負担が軽減される。

(実施例)

次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の帳票データ作成システムの実施例を示す全体構成図である。キーボード1は、入力操作者が文字、数字、記号等のキーと各種の動作を指示するためのファンクションキーのいずれかを押下すると、対応する所定のデータコードまたは動作コードを発生する。帳票定義部2は、キーボード1から利用者が入力した帳票定義(構成フィールドの指定および任意のフィールドに対しての属性定義)を作成し、帳票定義記憶部3に格納する処理を行なう。日時発生装置4は現在の日付を発生する。利用者オフィス環境ファ

イル5は、統合オフィスシステム11において、利用者の氏名、所属部門名、所属部門のメール番号等の属性情報が格納されている利用者オフィス環境ファイル5が用意されている。

利用者はまず自分のIDにより、統合オフィスシステム11にログオンし、仮想オフィスを選択する。次に、統合オフィスシステム11上で帳票の新規作成を選択することにより、自動的に電子伝票システム12が起動される。利用者がキーボード1より定期券購入申込書の帳票の定義を行なうと、帳票定義部2はこれを帳票定義記憶部3に格納する。このとき、利用者の指定により定期券購入申込書の発行者の氏名24、所属部門名22、所属部門のメール番号23、発行日付21の項目に発行者項目という属性を定義しておく。帳票が帳票定義記憶部2に格納されると、各利用者からの起票が可能になる。

次に、利用者Aがこの帳票定義から定期券購入申込書を作成するとする。

まず、利用者Aは自分の利用者IDで統合オフィスシステム11にログオンし、電子伝票システ

ム12を起動する。利用者が定期券購入申込書の帳票を指定すると、帳票データ作成部6は、帳票定義記憶部3より指定された帳票定義を読み込みCRTディスプレイ7に表示する。この時、帳票データ作成部6は発行者項目の属性が定義されている項目に対して利用者オフィス環境ファイル5より利用者Aのデータを読み込み、自動入力する。発行者名、発行者所属部門名、発行者所属部門メール番号にはそれぞれ利用者Aの氏名、所属部門、所属部門メール番号が自動入力、表示される。発行日付には、日付発生装置4より当日の日付が読み込まれ自動入力、表示される。また、利用者Bが統合オフィスシステム11にログオンし、同じ帳票定義により定期券購入申込書を作成しようとした場合には、発行者項目には利用者オフィス環境ファイル5から利用者Bのデータが読み込まれる。

(発明の効果)

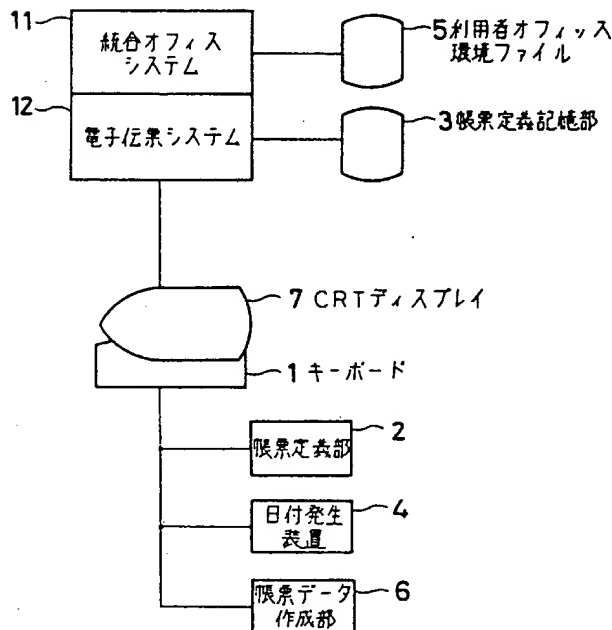
以上説明したように本発明は、帳票設計時に任意のフィールドに発行者項目という属性を定義

し、帳票起票時にその項目に対応するデータをファイルから読み込み、自動入力、表示することにより、入力データの正確さが向上し、データ入力時の入力の負担の軽減が図れるという効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の電子伝票システムの一実施例を示すブロック図、第2図は帳票の一例で、定期券購入申込書を示す図である。

- 1 …… キーボード、
- 2 …… 帳票定義部、
- 3 …… 帳票定義記憶部、
- 4 …… 日付発生装置、
- 5 …… 利用者オフィス環境ファイル、
- 6 …… 帳票データ作成部、
- 7 …… CRTディスプレイ、
- 11 …… 統合オフィスシステム、
- 12 …… 電子伝票システム、
- 21 …… 発行日時、
- 22 …… 発行者所属部門名、
- 23 …… 発行者所属部門メール番号、
- 24 …… 発行者名。



第 1 図

23		24		21	21	21
所属部門		メール	氏名	社員番号	承認	
現住所						
通	申込理由					
送	使用開始日					
日	人事課——発行部門					

第 2 図

This Page Blank (uspto)